

ご挨拶



副会長

たかはし ひであき

高橋 秀明

ウィーメックス(株)
代表取締役社長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本格的な「人口減少時代」を迎えようとしている我が国においては、高齢者から若者まで全ての人が元気に活躍し続けられ、安心して暮らすことのできる社会を構築していくためにも、生産年齢人口の減少や増大し続ける医療費、疾病構造の変化、医療の質と安全の確保などの様々な課題を解決していかなければなりません。JAHISが担っている保健・医療・福祉のデジタル化は一層重要になっています。

2024年度は医療デジタル化にとって重要な年となります。マイナ保険証の利用促進と12月の健康保険証廃止。電子処方箋のさらなる展開。2025年度運用開始に向けた電子カルテ情報共有サービスの構築。2025年初頭のモデル事業向け標準型電子カルテα版の開発。これらの政策以外も含め、医療情報を取り巻く環境はまさに今、大きく変わろうとしています。

また、今年度の診療報酬・薬価・介護報酬のトリプル改定でもDXに関する評価が重点的に盛り込まれていることから、医療・福祉・介護の分野においてDXを強力に推し進めていくという国からの意思が伝わってきます。

このようなDX推進と共にサイバーセキュリティ対策も重要な課題となっています。あらゆる業界でセキュリティインシデントが増加する中、医療機関等も例外なく被害が報告されています。あらゆるステークホルダーが安心して情報を預け、取り扱えるよう、JAHISでも、病院、診療所、薬局、介護施設等を問わず、医療情報を扱う施設において、3省2ガイドライン（「医療システムの安全管理に関するガイドライン」、「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」）のさらなる順守、周知、支援などの徹底した活動が重要となります。

こうした活動はJAHISが2020年に発刊した「2030ビジョン」の中でコンセプトとしている「データ循環型社会の実現」を達成し、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環し利活用することで、データ提供者である国民が利益を享受できる社会の構築には必要不可欠であり、JAHISが貢献できる範囲が今後益々拡大していくと考えております。

JAHISは、引き続き、各省庁、学会等の関係団体と連携を強化しながら活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶



副会長

かきぬま よしひこ

柿沼 良彦

キヤノンメディカルシステムズ(株)
ヘルスケアIT事業統括部
ヘルスケアIT開発センター主席

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の副会長に就任いたしました柿沼でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHIS活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、日本社会が直面する課題の一つに少子高齢化による人口減少があります。就業者数が大きく減少する中、医療・福祉職種の人材は今後ますます必要とされることが推計されています。政府はこの医療需要の変化に対応するため、医療・福祉サービスの改革を行い、生産性向上を図ることで医療従事者の増加を抑制しようとしています。

この生産性向上のためには、医療・介護DXが欠かせません。それには「医療DX令和ビジョン2030」で示された「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ情報の標準化等」「診療報酬改定DX」の実現が必須であり、これはJAHISが目指すデータ循環型社会に繋がる取り組みでもあります。

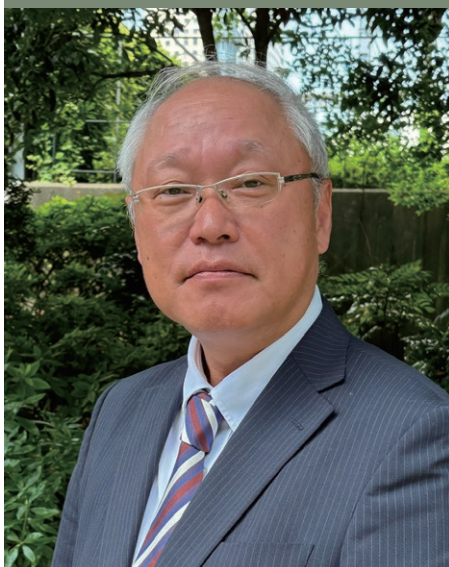
今年の診療報酬改定においても医療DXに関する加算の新設や電子カルテ情報共有サービスの活用が施設基準要件となり、介護報酬改定ではLIFE関連加算の要件見直しなど、医療・介護業務のデジタル化推進に向けた土台づくりが行われています。このような行政の対応に対して、JAHISとしても情報システムの相互運用性を確保するための標準化の推進、医療情報の効率的な利用と安全性向上のための活動をさらに強化し、医療・介護情報基盤の構築に取り組んでいく必要があります。

そして、全国医療情報プラットフォームの二次利用基盤を活用して診療・診断支援などのAIの研究開発や医療サービスの改善など、健康・医療・介護分野への活用を促進することにより医療と経済の発展に繋がっていくものと考えます。AI、ビッグデータ、IoTなどの先進技術を駆使し、電子カルテの普及促進を手始めに医療データの安全な共有と活用、AI診断の実現などを通じて、患者様に対するケアの質を向上させるとともに、医療従事者の負担軽減、生産性向上に取り組むことが不可欠です。

これらの課題に対して、JAHISがリーダーシップを発揮し、医療DXを推進することで、持続可能で質の高い医療・福祉提供体制の実現に貢献できると思います。

私はこれまで、医療情報システムの分野で30年以上にわたり活動してまいりました。その中で、医療現場における情報の重要性、そしてその適切な管理と活用がもたらす影響を実感してまいりました。今回の副会長就任にあたり、これまでの経験を活かし、JAHISの目指すビジョンの実現に向けて尽力してまいります。皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

ご挨拶



副会長

あさみ ひでのり

浅見 英徳

日本電気(株)

医療ソリューション統括部長

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）副会長を拝命させていただくこととなりました浅見でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早いもので、2024年も後半に入っておりますが、本年は経済に関するニュースを数多く目にしました。3月には日経平均株価が初めて40,000円を超え、4月には1990年以來の円安、7月には新札発行等、経済の動きを肌で感じた方も多いかと思います。

そのような中、世界に先駆けて超高齢社会を迎えている我が国では、「健康で安心して暮らせる社会」の実現に向けて、様々な課題と向き合う時が来ております。特にJAHISが対象としている「保健医療福祉を取り巻く環境」におきましても、少子高齢化、人口・生産人口の減少、逼迫する医療費や社会保障制度の持続継続性の確保等、ひとつひとつの課題をクリアしていかなければなりません。我が国でも骨太方針2022の中で、医療・介護分野でのDXを含む技術革新を通じたサービスの効率化、質の向上を図るとされ、大きな流れができました。この中では、行政と関係業界が一丸となって進めるとともに、医療情報の利活用についても、国をあげて推進していく方針が打ち出されました。情報システム基盤の整備や、情報システム技術の強化、イノベーションの必要性は益々高まっております。そして、それらを支える標準化の推進等、JAHIS活動への期待も、益々高くなってきております。

これらの動きは、JAHISが掲げる「データ循環型社会の実現」を後押ししていると言ってよいでしょう。JAHISとして、付加価値の高いシステム、サービスをどのように提供していくのか、こういった部分で会員各社が協調しお互いを高め合い、社会に貢献できるのかを常に考えていきます。ICTだけで全て解決できるものでもありませんが、ICTが社会の課題を解決する重要な要素であることは間違いありません。産官学の各関係機関としっかりと連携し、活動を進めてまいりたいと思います。現場をよく知るJAHISだからこそ、現場に寄り添った有益なシステムやサービスを創ることができるものと思います。

今後もコンプライアンスを遵守しつつ、各省庁、学会等の関係団体と連携し、産官学の対話や関係する人材の成長機会のある場としての役割・機能を高め、その実現に向けた活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶



副会長

なりゆき ふみと

成行 書史

富士フイルム(株)
メディカルシステム事業部
ITソリューション部長

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より、JAHISの活動にご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、副会長を拝命いたしました富士フイルムの成行書史でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年6月に「骨太の方針2023」が閣議決定され、医療に関しては、高齢者人口の増加と人口減少に対応し、限りある資源を有効に活用しながら質の高い医療サービスを必要に応じて受けることのできる体制を確保するための「医療提供体制の改革」、また、医師の働き方改革を実践しながら増大する医療ニーズに効率的に対応し、医療サービスの質を上げていくための「医療DXの推進」に関する方針が明示されました。また、医療DX推進本部において策定された「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、政府を挙げて確実に実現することが確認されました。2024年度診療報酬改定でも多くの医療DX項目が評価され、「全国医療情報プラットフォーム」の一環で2025年度からの運用開始が進められている「電子カルテ情報共有サービス（仮称）」について「医療DX推進体制整備加算」のもと要件化される等、業務の効率化に向けた簡素化・デジタル化を推進・評価する施策が今後も加速していくと思われます。

一方、AI技術の進歩も著しく、LLM（大規模言語モデル）、LMM（大規模マルチモーダルモデル）などの「生成AI」技術が急速に進展しており、まだ一部ではありますが、医療現場での実用化の取り組みもすでに始まっています。医師の働き方改革が進む中で、医療の質と患者の安全を確保しつつ、新たな技術を取り入れながら、持続可能な医療提供に貢献していくという観点からも、JAHISはますます重要な役割を果たしていくと期待されます。

私は、画像診断および医療情報の統合ソリューションに関わるソフトウェア、サービスの企画・開発に従事している身ではありますが、これまでの経験を活かして、微力ではございますが、JAHISの取組みに貢献して参りたいと思います。今後ともご支援の程を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



理事

は せ が わ ひ ろ あ き

長谷川 裕明

(株)ファインデックス

取締役・コンサルティング部 部長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会会員の皆様、また関係各位の皆様、本年度より理事に就任しましたファインデックスの長谷川でございます。会員の皆様におかれましては平素よりJAHISの活動へのご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。感謝申し上げます。JAHISの活動に関しましては、私自身新参者でございますが、誠心誠意我が国の医療福祉政策の推進の一助を担い、国民一人一人の幸福度向上並びに工業会の皆様の共同の利益になるための活動に、しっかりと取り組んでまいりたいと存じます。

さて、現在の我が国の状況を鑑みると「少子高齢化」、「人口減少」、「経済活動の衰退」等々の景気の悪いキーワードが並んでおりますが、私としましては、逆にこれはチャンスであると考えたいと思っております。我が国が行う政策・行動に関しまして、少子高齢化社会の最先進国である我が国がどのように運営するのか、またその結果としてどのような社会が実現できるのかという点で世界中から注目されており、より良い活動を行うことで世界も注目するモデル（例えば昭和36年に実現した今の国民皆保険のような）が再び誕生し、世界の規範となることが可能なのではと考えます。

現在の少子高齢化社会を考えますと急性期医療の提供量の拡大よりも、よりQOLの高い地域における医療、介護、福祉の提供の増加が望まれる時代になりつつあることは皆様ご承知のことかと存じます。そのキーとなる考え方は、医療、介護、福祉を提供する様々な事業者間の情報共有でありそのためのIT戦略が重要になってくるということかと思っております。一説によりますと近い将来、日本の就業者の6から7名のうち1名が医療、介護、福祉に従事することになるとの予想がございます。これは国民一人一人の情報を医療、介護、福祉に従事する就業者が適切に管理し、適切な医療、介護、福祉を提供することが肝要になるということの裏付けになっていると考えます。ランサムウェアをばらまくような犯罪者にデータを侵害されることなく、個人の尊厳の観点から個人情報を守りかつ最適な医療、介護、福祉を提供するために必要な情報共有をどのように行うかは世界が注目する重要な指針になると考えており、我が国はそのトップランナーとしての役割を果たさなければいけないと考えます。

また、昨今のDX化の流れやAIの活用、テクノロジーの利用は勿論のこと、データが持つ価値からより良い医療、介護、福祉の在り方を探求する活動も非常に大事になってきており、国民的な議論を高めていかなければなりません。その上であるべき医療、介護、福祉の在り方を工業会も一緒になって本格的に考えていく必要があるかと思えます。

そのためにできるだけ短期的にかつ活発に活動を進める必要があると考えますが、我が国で始まった医療のコンピュータ化の歴史は半世紀以上にもなり、JAHIS会員の皆様も地道に活動をされてきた医療、介護、福祉に関するシステム化の経験知は、莫大なものであると考えております。それを遺憾なく発揮できれば、これからの時代も十分に乗り切っていけるのではと考えております。

世界を見渡すと凄まじいテクノロジーの進化と巨大なデータを扱うサービスが現代のデータ社会を席卷する時代になってきている感があります。ただ、医療、介護、福祉そのものが人に寄り添うサービスである限り、データ社会で扱うデータも現場に寄り添ったものになる必要があるのではないかと私は考えます。医療、介護、福祉に従事されている方々が、人に寄り添い蓄積した莫大で貴重なデータを、我が国で蓄積された経験知と活用することで安全、安心なサービスを提供できるようになり、より良い社会を実現できるのではないかと考えております。そのためにJAHISの一員としてしっかり活動をしてまいりたいと考えます。是非共に明るい我が国の未来に向けて皆様と一緒に努力したいと考えております。何卒ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

むねかわ はるき

棟川 治樹

(株)医療情報システム
管理部 担当部長

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会の監事を務めさせていただくことになりました棟川治樹でございます。ここでひとこと、就任のご挨拶を申し上げます。

さて、2023年6月に医療DX推進本部より提示されました「医療DXの推進に関する工程表」によれば、2024年は医療DX推進に関して、転換期となるような様々な工程が実施されます。標準型電子カルテα版の着手やJAHIS会員様におかれましては既に電子処方箋の本格的な展開や「電子カルテ情報共有サービス」の基盤構築により、先行的な医療機関様にて運用着手されているかと思えます。そして最も大きな工程として健康保険証の廃止が2024年12月2日に実施されます。これらの工程は医療DXを急速に実現することになります。

また、医療DXの推進によりサイバーセキュリティ対策がこれまで以上に必要不可欠になります。病院におけるランサムウェアの被害も増加傾向にあり、3省2ガイドライン（※「医療システムの安全管理に関するガイドライン」、「医療情報を取り扱う情報システム・サービス提供事業者における安全管理ガイドライン」）の周知や支援策等について、より具体的に示していくことがJAHISの活動に期待されることのひとつと思っております。

医療DXは保健・医療・介護の各段階で発生する情報やデータをクラウドなどを通して共通化・標準化し、国民の健康寿命の延伸やより良質な医療やケアを実現することです。しかしながら医療DXによって医療格差が是正されることは事実ですが、デジタルツールを使いこなせない世代などは医療DXの恩恵を受けることができないことも事実です。このような問題点に関しても今後並行して取り組む必要があります。

JAHISの2030ビジョンで描く「データ循環型社会の実現」について、個人から得られるデータが循環し恩恵を個人に還元する世の中を実現する為に、皆様の変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

ふく だ たかし

福田 隆

三菱電機ITソリューションズ(株)
常務取締役
流通・ヘルスケア事業部長

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、監事を務めさせていただくことになりました三菱電機ITソリューションズの福田 隆でございます。就任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

昨年6月に医療DX推進本部より提示されました「医療DXの推進に関する工程表」におきましては、全国医療情報プラットフォームの創設、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定DXなど、医療分野におけるデジタルトランスフォーメーションの計画が具体化され、ここにきて、我が国における医療DXの実現に向けた取り組みは急速に進んで参りました。マイナナンバーカードと健康保険証の一体化に関しましても健康保険証の廃止は本年12月2日に決定し、また、診療報酬改定DXの一環として、計画通り本年4月から6月へ施行時期の後ろ倒し等が行われた他、共通算定モジュール開発の動きも進んでおります。さらに、今年6月に内閣府が決定した「経済財政運営と改革の基本方針2024」では、全国医療情報プラットフォームの強化、電子カルテの標準化と普及、診療報酬のデジタル化、AIとビッグデータの活用など、医療DXのさらなる推進が掲げられ、マイナポータルを介して医療情報基盤、介護情報基盤、全国自治体・行政基盤が連携する全国医療情報プラットフォームの構築により、患者の診療情報の一元管理が進み、より多くの医療機関にて情報の共有と活用が期待されます。電子カルテの標準化と普及により、異なる医療機関間での情報共有がさらに円滑になり、診療の質が向上します。また、診療報酬のデジタル化により、医療機関の業務効率が一層向上し、医療従事者の負担が軽減され、AIやビッグデータの活用により、診断や治療の精度が向上し、医療の質がさらに高まることが期待されております。

私たちJAHISは、「2030ビジョン」に基づき、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指しています。このビジョンでは、データ循環型社会の実現に向けて、保健医療福祉情報システムを通じてデータの効果的

な利活用を促進し、社会全体の情報化を推進します。また、異なるシステム間での情報連携を可能にする標準化されたシステムの提供を進めると共に、さらにAIやビッグデータなどの先端技術を活用し、医療・福祉サービスの質を向上させることを目指しています。そして、持続可能なシステム運用のために、必要な人材の育成と財源の確保を図ります。

これらの目標を達成するために、会員の皆様と協力し合い、技術革新と標準化の推進に努めてまいります。より良い医療環境の実現を目指して努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。